

2018年度 日本文化人類学会
第1回理事会 議事録

日時：2018年5月13日（日）14:00～17:00

会場：東京外国語大学本郷サテライト 5階セミナールーム

<出席者> 清水展、綾部真雄、石田慎一郎、伊藤泰信、風間計博、亀井伸孝、川田牧人、木村周平、窪田幸子、栗田博之、棚橋訓、森山工、箭内匡

<委任状提出者> 赤堀雅幸、飯田卓、石井美保、佐々木重洋、曾我亨、高倉浩樹、中谷文美、速水洋子、松村圭一郎、森田敦郎

〔承認事項〕

1. 2018年度第27期・第28期新旧合同理事会議事録を承認。
2. 新・再入会員（14名）につき、総務会で入会を承認したことを報告の上で事後承認。
3. 課題研究懇談会の前年度活動報告と、新規登録メンバーについて、回覧の上で承認。

〔報告事項〕

1. 会長報告
 - ・総務会に一任されていた今期の監事の委嘱について、法人化後を見据えて監事の条件について専門家に確認を行い、専門的資格は不要だが、理事以外の社員（代議員）に依頼するのが妥当であるとの示唆を得て、現在その条件を満たす候補者と交渉中であることを報告。
 - ・小川さやか会員が担当する学会公開シンポジウム「現在・未来の経済社会に向けた人類学的知の再構築—ブロックチェーンからシェアリング経済まで—」が本年11月10日に開催されることを報告。
2. 庶務理事報告
 - ・「第8回（平成29年度）日本学術振興会育志賞」の学会推薦候補者の募集について5月14日〆切としてJASCA-INFOで配信したことを報告。
 - ・第13回日本文化人類学会奨励賞授賞理由書案を確認。第13回学会賞を授賞者無しとした経緯について補足説明がなされた。次回評議員会の際に、学会賞受賞候補者に関する投票について会長より補足説明を行うこととした。
3. 会計理事報告
 - ・2017年度収支決算案について、5月7日に監事による内部監査を実施したことを報告。
4. 広報理事報告
 - ・前回理事会以降、会員連絡用メーリングリストの運用内規に基づき3件のJASCA-INFO配信を行ったことを報告。
 - ・科学技術振興機構より、J-STAGEに掲載されたものについて「ダークアーカイブ」の利用案内が届いたことを報告。これは災害等で一定期間J-STAGEが停止状態となった場合にコンテンツの代替提供を行うものであり、研究大会発表要旨、『文化人類学』、JRCAが対象となるが、ダークアーカイブでは基本的には全コンテンツが公開になるため、認証設定有りのコンテンツの扱いについて検討が必要である（初期設定は非公開とされている）。本件については6月30日までに回答を行う必要があるため、両編集委員会において初期設定通りで問題ないかを確認することとした。
 - ・CiNiiからJ-STAGEへ移行したデータについて、タイトル等の誤記が散見されるが、この修正処理について、2019年3月末までは更新履歴無しで修正可能とする措置が実施されていることを報告。JRCAについては2019年3月末を目途に照会及び書誌情報の掲載を行うこと、『文化人類学』についてはデータが大量であるため近年のものから徐々に遡りつつ確認と修正を進めることとした。
5. 各種委員会報告
 - ・『文化人類学』編集委員会：委員の確定と83巻1号の進捗状況について報告。
 - ・「国際情報発信強化」特別委員会：今年度は科研費「国際情報発信強化（B）」の継続課題3年目であること、英文誌への投稿促進と東アジアとの連携を進めること、特に今期は台湾との関係強化を進める予定であることを報告。今年の国際研究集会発表助成の募集について次回理事会で提案予定であることを報告。

- ・国際化グローバル化対応委員会：WCAA、IUAES の活動とその上位組織である WAU、および本学会との関わりについて説明。両団体から早急の対応が求められる案件があった場合、清水会長候補と WC AA Delegate を務める窪田理事とで判断することとした。また、今期中に次期 Delegate への引継ぎに目途をつける予定であることを報告。
- ・民博連携委員会：委員の確定、および第 52 回研究大会会場に国立民族学博物館のブースを設置予定であることを報告。
- ・学会歴史委員会：欠席の飯田理事に代わり木村理事より、委員会で保管する資料について確認を進めていることを報告。
- ・倫理委員会：委員の確定、および引継ぎを進めていることを報告。
- ・医療者向け人類学教育連携委員会：委員構成について報告。

【審議事項】

1. 各種委員会の構成について
 - ・清水会長候補より、資料に基づき現時点での委員会構成に関する説明がなされ、承認された。
 - ・「次世代育成セミナー実施運営委員会」の名称について、「次世代育成セミナー担当委員会」へ変更することが提案され、承認された。
 - ・栗田理事より、各委員長に担当委員会のメンバー氏名の英語表記と所属機関の英語名称を事務局へ連絡するよう依頼があった。
2. 2017 年度事業報告・2018 年度事業計画（案）について
 - ・木村理事より、2018 年度事業計画案について前回からの変更点を中心に説明がなされた。このうち、2 年ごとに刊行されている会員名簿につき、経費削減と個人情報保護の観点から廃止することが提案され、承認された。会員名簿の刊行廃止を含め、事業報告・事業計画（案）については文言調整の上、評議員会の審議を経て総会へ諮ることとした。
 - ・地区研究懇談会について、各地区担当理事と所属地区とのずれが生じる可能性がある点について、委員会形式とし、各地区における実際の担当者を委員に加えることが提案された。審議の結果、現行の地区研究懇談会規程を確認した上で、現行の規程でこの問題に対応することが可能であれば規程等の変更を行わないが、対応することが困難であれば委員会形式での運営が可能となるよう規程等を改めることが承認され、今後の扱いについては総務会に一任することとした。
3. 2017 年度決算案・2018 年度予算（案）について
 - ・綾部理事より、2017 年度決算について監査済み決算書の提示と説明があり、これを評議員会資料とすることを確認した。
 - ・石田理事より、資料に基づき 2018 年度予算（案）について前回からの変更点を中心に説明があり、第 52 回研究大会において新たな運営方式を導入した経緯から、演題登録システムと参加登録システムにかかる費用の両方について、研究大会預け金ではなく研究大会演題登録システム費から一括して支出することが提案され、承認された。また、今年度収支が大幅な赤字となる見込みのため、将来計画基金への組入れを行わないことが提案され、承認された。その上で、これらの変更を反映した 2018 年度予算（案）を文言調整の上評議員会へ諮ることとした。
4. 学会法人化について
 - ・棚橋理事より、現時点での定款最終案のポイントについて説明がなされ、承認された。これについて引き続き委員会で検討を重ねていくことが報告された。
 - ・法人化に関する今後のスケジュールと、法人化に伴う必要な手続きについて説明がなされた。任意団体の解散日については、手続きの進行を見極めつつ設定する必要があるため、次回の総会で、理事会への一任を受ける必要があることが説明された。
 - ・その他、法人税や雇用に伴う消費税の課税等、様々な面での対応が必要であることが説明された。
5. 第 8 回（2019）三島海雲学術賞について
 - ・木村理事より、第 8 回三島海雲学術賞推薦依頼が届いたことが報告され、審議の結果、過年度と同様、JASCA-INFO を通じて学会推薦候補者の募集を実施すること、配信文案については総務会に一任することが承認された。また、選考についても過年度と同様の手順で行うことが承認された。
6. 京都大学人文科学研究所へのサポートレター依頼について
 - ・木村理事より、京都大学人文科学研究所から「国際共同利用・共同研究拠点」申請に係る要望書の提

出依頼が届いたことが説明され、審議の結果、要望書を提出すること、要望書の作成については総務会に一任することが承認された。今後、同様の依頼があった場合には、総務会で検討の上で対応し、直近の理事会で事後承認を得ることとした。

7. その他

- 2018年度総会で黙祷を捧げる物故会員について確認を行った。
- 2018年度第2回理事会は6月1日（金）18時30分～、於弘前大学総合教育棟（文京町地区）2階大会議室。
- 2018年度第2回評議員会は6月2日（土）12時～13時30分、同会場。

以上